

**令和4年度プログラム点検・評価結果**  
(令和5年4月27日 数理科学教育点検・評価委員会)

点検・評価項目	点検結果（コメント等）	評価
<b>A:履修状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修者数・履修率、目標の達成状況</li> <li>学生の履修を高めるための取組</li> <li>学生の学修成果の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数理・データ科学教育研究センターが中心となり、本学全体のプログラムの履修状況や修了状況を把握・分析している。令和4年度は、本プログラムの履修者数は1,595名（①全在籍学生の25.4%、②プログラム適用対象となった全1年生の89.8%）、修了者数は808名（①12.9%、②45.5%）となるなど、プログラム開設初年度としては概ね良い結果となった。</li> <li>本学では各学部の特長や専門性に合わせた科目でプログラムを構成しており、学部毎に履修要件・履修状況が異なる。医学部、国際教養学部、医療科学部では、コア科目の必修化により全ての学生がプログラムを修了する。スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部では、コア科目が選択となっているため、引き続きガイダンスを通じた周知や履修指導に努める必要がある。より多くの学生が履修できるよう必修化も含めた検討・対応が望まれる。</li> <li>学生の履修意欲を高め学修成果を可視化するため、できるだけ早い時期に、プログラム修了生に対する修了証の整備が期待される。また、修了証の発行に合わせ、プログラム修了生にアンケートを行い、教育研究や臨床現場でのスキルの活用、資格試験合格等の成果などを追跡することを通じて、学修成果を測っていくことが望まれる。</li> </ul>	A
<b>B:プログラムに対する学生の評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の理解度、満足度は十分か</li> <li>後輩他への推奨度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターが中心となり、学生に対する授業科目終了時アンケート、担当教員に対する授業評価アンケートを実施している。学生・教員両サイドによる評価を分析することにより、プログラムに対する学生の理解度や満足度を把握している。</li> <li>令和4年度のアンケート結果によれば、学部や科目毎にばらつきは見られるものの、理解度や満足度に関する設問において、履修学生の7割以上から肯定的評価を得られた。</li> <li>後輩他への推奨度に関しては、現時点では把握できていない。今後、プログラム修了生に対するアンケートを通じて他の学生への推奨度を把握し、広報などを通じて修了生の声を発信していくことが望まれる。</li> </ul>	A
<b>C:プログラムの構成・内容、指導の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶ楽しさ、学ぶ意義を教える授業となっているか</li> <li>内容及び水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となっているか</li> <li>学生の理解やスキルの獲得を助けるための工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度アンケートの「授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のことをもっと知りたいと思ったか」の質問で、7割以上の学生が肯定的に評価しており、概ね「学ぶ楽しさ」や「学ぶ意義」を教える授業となっていると評価できる。</li> <li>また、「授業の分かりやすさ」や「理解や技能の獲得を助けるための工夫」に関する質問においても、約8割の学生が肯定的に評価しており、「分かりやすい」授業となっていると評価できる。（TAによるサポート、勉強会の開催等による効果と考えられる）</li> <li>学生の興味・関心をさらに引き出すため、より発展的なプログラムに導く必要がある。そのため、発展科目や応用プログラム（応用基礎レベル）の開発・展開が望まれる。</li> </ul>	A
<b>D:質問・相談等への対応</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生からの質問・相談に対応する体制は確保されているか</li> <li>授業課題や学生の参加に対し、効果的なフィードバックを行ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度のプログラムでは、オフィスアワーの設置のほか、メールや学習支援システムを通じた質問・相談体制を概ね確保できた。また、一部の取組であるが、TAによる学習サポートや希望する学生に対する勉強会の開催等の工夫も見られた。</li> <li>また、学生から質問・相談について、これまでの小テストや課題等の結果を参照し個々の理解度に配慮した指導を実践した例や、演習科目においてできるだけ授業中に学生の質問に対応できるようTAを確保した例は、効果的なフィードバックとなったと推察される。</li> <li>令和4年度アンケートによれば、「質問や意見の述べやすさ」及び「効果的なフィードバックの有無」の質問について、約8割の学生が肯定的に評価。質問・相談等への対応に関し、高い満足度を示している。</li> </ul>	A
<b>E:修了生の進路・評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育プログラム修了者の進路・活躍状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム開始初年度であり、修了生が卒業していない。今後、各種アンケートを通じてプログラム修了生の進路、活躍状況等の情報を把握し、評価することとする。</li> </ul>	F
<b>F:学外からの評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム修了者に対する企業等の評価</li> <li>教育プログラム内容・手法等に関する外部意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム開始初年度であり、現時点では、本プログラムに対する外部意見を得られていない。今後、本学全体の「外部評価プロセス」を活用しながら、本プログラムの妥当性・有効性に関する意見を収集することとする。</li> <li>センターでは、令和5年度以降、企業と連携したコンペティションやセミナー等を企画する予定であり、そうした機会を通じて企業から本プログラムの評価を得ることとする。</li> </ul>	F

【評価の基準】 S：高水準にある/目標以上の成果があった、A：ある程度の水準にある/ある程度の成果があった、B：不十分な水準にある/改善が必要である、F：判断材料の不足により判断できない